



清涼飲料業界の「プラスチック資源循環宣言」

2019年03月12日

一般社団法人 全国清涼飲料連合会

プラスチック資源循環宣言決定プロセス

- ◆ 2018.05.10 食環協共催**第1回海洋ごみ勉強会**開催
- ◆ 2018.07.12 環境委員会にて今後の対応検討
- ◆ 2018.07.19 **運営委員会**にて議論
 - … 自販機横の容器回収BOXあり方検討は自販機委員会
 - … 国際展開している企業も多く、「海洋プラ問題WG」を新たに設置し、啓発活動含む業界対応を集中議論
- ◆ 2018.08.07 **環境委員会3省庁交え議論**
- ◆ 2018.08.08 **全清飲海洋プラ問題WG**スタート
- ◆ 2018.08.21 **自販機委員会内でWG**スタート
- ◆ 2018.11.12 食環協共催**第2回海洋ごみ問題勉強会**
- ◆ 2018.11.29 **プラスチック資源循環宣言**発表

プラスチック資源循環宣言決定プロセス

◆ポイント

- ・清涼飲料業界として**問題意識(危機感)を共有**
→委員会、勉強会等を通じて、認識・ベクトル合わせ
- ・ゴールの決定
→**G20を待たず**に、何処よりも先んじて公表を決意
- ・議論を一本化
→WGを設立し、**とことん議論**
- ・業界関連団体との連携
→食品容器環境美化協会やPETボトルリサイクル推進協議会、自動販売機協議会等とも連携
- ・記者会見の実施
→**会長より、業界の意見表明**を実施

全清飲は、第四次循環型社会形成推進基本計画(2018年6月19日閣議決定)に基づき、資源・廃棄物制約、海洋プラ対策等の課題に対応しながら、持続可能な社会の実現の為、飲料業界として、食の安全と技術的可能性及び経済性を考慮しつつ、使用資源の3Rに努め、回収の更なる向上を推し進める等、プラスチックの資源循環を総合的に推進する。

清涼飲料業界のプラスチック資源循環戦略に対する基本的考え方

- ◆ **容器の機能性を保持しながら、環境負荷を踏まえた環境配慮設計を推進します。**
- ◆ **関係団体との連携協働により、コスト最小化と資源有効利用の最大化を目指すと共に、持続的なりサイクルシステムに取組み、回収と再生利用の最適化・増進を図ります。**
- ◆ **持続成長可能な資源循環サイクルに寄与すべく、業界内での再生材利用拡大(ボトルtoボトル等)を推奨します**
- ◆ **関係団体との連携協議により、まち美化・環境活動のさらなる取組みと、ポイ捨て防止、再生素材利用製品の積極利用等、消費者への啓発活動に取組みます。**

清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言

2018年11月29日

清涼飲料業界は、「清涼飲料業界のプラスチック資源循環に対する基本的な考え方」を基に、陸域・海域の散乱問題も踏まえ、お客様、政府、自治体、関連団体等と連携しながら、2030年度までにPETボトルの100%有効利用を目指し、短・中・長期に方向性を定め、プラスチック資源循環に真摯に取り組むことを宣言します。



一般社団法人 全国清涼飲料連合会

短期

2019年度
G20開催
国内プラ資源
循環戦略策定
2020年
東京オリパラ

- ◆ 国民運動と連動した業界としての啓発活動と広報強化
- ◆ 3R推進団体連絡会と協力し、第3次自主行動計画の達成
目標2020年度リサイクル85%以上、リデュース25%(2004年度比)
- ◆ 自販機専用空容器リサイクルボックスにおけるリサイク
ル啓発、及び効率的な回収への取組み強化
- ◆ 環境NGO等ステークホルダーとの連携強化
- ◆ 再生材利用拡大(ボトルtoボトル等)への課題整理及び推進
- ◆ 代替素材活用への取組み推奨(バイオマスプラスチック等)

中期

2025年度
第四次循環型
社会基本計画
数値目標年次

- ◆ 国や地域との協働による、より効率的な回収システム構築
- ◆ ポイ捨て防止条例強化要請
- ◆ 再生材・代替素材の積極的な活用推進

長期

2030年度
SDGsゴール

- ◆ PETボトル100%有効利用を目指した業界の姿勢・取組み
- ◆ 世界に誇る日本の回収・リサイクルシステムの価値と根拠
を定量的かつサイエンスベースで示し、諸外国への波及を
目指した関係団体との協働

回収向上への取組 ～自動販売機 散乱防止対策～

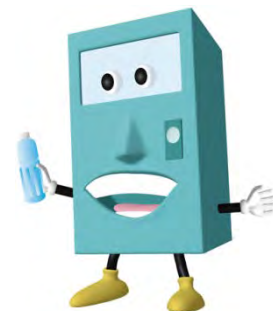
（これまでの取組み）

- ◆ 清涼飲料業界の成長、自動販売機（以下、自販機）の普及拡大に合わせて、容器の散乱防止に取組んでおり、空き容器ごみの発生抑制のため、全清飲をはじめとする飲料6団体として食品容器環境美化協会（現 公益社団法人 食品容器環境美化協会）を1973年より立ち上げて取組みを続けています。

1981年には統一美化マークを採用、自販機などに掲示するなどしています。



- ◆ 自販機の「自販機専用空容器リサイクルボックス」の設置については全清飲が1998年12月に制定した「自販機自主ガイドライン」において自動販売機により清涼飲料を販売する場合に遵守すべき基準の中で定めています。容器の入口は一般ごみが入りにくい形状とすること、原則として1台に1個の割合で自販機の脇や周辺に設置することなどを明記しています。



回収向上への取組 ～自動販売機 散乱防止対策～

1. 「自販機専用空容器リサイクルボックス」へ名称を統一

目的：業界の内外に向けてリサイクルをするための回収ボックスであるということを改めて啓発していきます。

2. 分別回収への取組

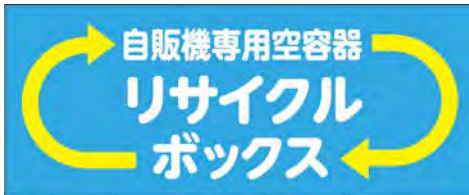
目的：回収ボックスの中には、さまざまな“ごみ”などの異物が混入しています。入りきれなかったために容器が散乱したり、異物により回収品の品質が悪くなりリサイクルを阻害することもあります。現状打破のため実証実験にて、散乱防止につながる分別回収に取り組んでまいります。

【実証実験内容】

- ① 実施時期：2018年12月～2019年2月中旬
- ② 場所：東京都内
- ③ 実験内容：
 - 「PETボトル専用リサイクルボックス」、「缶びん専用リサイクルボックス」を2個、設置する。
 - 容器の入口には「PET専用入口」「缶びん専用入口」を明記します。
 - 消費者啓発ステッカーを貼付（分別回収および散乱防止のお願い）
- ④ 検証：リサイクルボックス内の異物混入実態を調査
実験実施後に散乱状況、異物混入状況を確認する

回収向上への取組 ～自動販売機 散乱防止対策～

分別回収 実証実験 自販機イメージ



PET ボトル 専用

Plastics
Bottles
Only



分別
回収中



混ぜればゴミ 分ければ資源

缶・びん 専用

Cans • Bottles



分別
回収中

混ぜればゴミ 分ければ資源



2017年度、ボトルtoボトルは堅調に推移、前年比 106.7%

数値は、PETボトルリサイクル推進協議会より

PET ボトルのボトル to ボトルへの再生 PET 樹脂利用量の推移



上記グラフの2016年度は57.46千トン、2017年度は61.33千トンです。この数字から前年度比を出しています。

■ ■ プラスチック資源循環宣言の具体的実行に向けて ■ ■

プラスチック資源循環宣言に基づき、実行内容をスピードをもって具体化し、適宜情報発信していく

- PET資源循環レベル向上（回収、再利用）取組具体化
⇒PETボトル100%有効利用委員会設置・・・傘下に自販機WG
- 海洋プラスチック問題の改善に向けた取組具体化
⇒海洋プラスチック対応委員会設置
- 素材等の技術的課題への取組具体化
⇒PETボトルリサイクル推進協議会へ依頼

- 意思決定：実行権限ある（運営委員会は方針管理）
- 権限：スピード優先で一定の権限を付与
- 取組内容：宣言で掲げた短・中・長期実施事項の具体化
- 参加メンバー：運営委員のメンバー社に依頼、各社より委員を選出
課題に対する必要な知識を有し、検討ならびに実務をこなせる人材